

私がこの北見工業大学に入学してあと数ヶ月で1年が経過しようとしている時期になった。慣れない土地での一人暮らしや、今までの高校生活とは勝手の違う大学生活に戸惑いながらも、学科や部活、バイトも含め多くの人と出会い、多くの経験をして来たせいかもしれないが、あっという間だった気がする。

今までの小学校、中学校、高校は同じ県内の人間同士関わっていたため、なかなか感じられなかったが、大学に来て北海道、東北をはじめとして様々な地域から来た人たちと関わることがこんなにも刺激的であり面白いことなのかと実感した。単にその人と話すのが面白いのだけではなく、会話はもちろん遊んだりするだけでもその人の出身の地域のルールなどが垣間見えてものすごく面白く感じた。

典型的なもので言えばグーとパーを使ってチーム分けをするときに言う掛け声であろうか。しかしながら、この程度のカルチャーショックは中学校から高校に上がった段階で味わっている。大学に来てからはそれ以上のものを味わった。

大学に来て味わったカルチャーショックとは言葉の使い方や、料理の味の濃さ、物の呼び方である。例えば言葉の使い方と言えば私自身入学当初語尾に「～だら」「～さ」、自分の家のことを「俺っち」と同じ静岡出身の友人と静岡の方言を炸裂していたが、まずそれを弓道部の青森出身の友人たちにいじられた。本人たちもかなり青森の方言を使っていたにもかかわらず・・・関西出身の友人もイントネーションが今までの自分の周りとは大きく違っており、新鮮な感じであった。また、料理の味の濃さで言えば、同じ部活のK君とS君は私が普段通りの味付けで作ったスープが薄味であるとコメントしてくれたこともあった。単に個人の好みの問題かとも思うが、北の方出身の方が濃い味が好きなのは本当なのかと実感した瞬間であった。そして物の言い方、呼び方では同じ学科の北海道出身の友人は七味唐辛子のことを南蛮と呼んだり、秋田出身の民は紅鮭のことをぼだっこと呼んでいたり新たな文化に触れてしまった気分であった。

しかしながら、カルチャーショックに驚いているのは私だけではないのではないだろうか。それこそ、北海道や秋田出身の雪が降る地域で育った人からすれば今まで雪の経験がほとんどなく、雪かきの大変さなど当然知る由のない静岡出身の人間（ちなみに静岡の降雪量は日本全国最下位であり、降ったとしても4年に一回程度うっすら積もるだけである）が初めて雪の降った日に大はしゃぎして素手で雪だるまを作ったり雪合戦をしたり、雪を食べようとしていたのはかなり滑稽だったのではないだろうかと思う。しかしながらそんな風に雪ではしゃぎ回っていた私も様々な北海道の冬の洗礼を受けてからは今は雪が降っても何も用事がないときは家でおとなしくしていることにしている。

そんなこんなで当初は不安を抱きながらも大学生活を友人や先輩とご飯を食べに行ったりゲームをしたり、知床に旅行をしたり温泉に行ったり、スキーやスケートをしに行ったりと北海道ならではの大学生活を大いに楽しんで生活を送っている。今年の冬の遊びの目標としてはスケートを人並みに滑れるようにすること、北海道の有名なスキー場を訪れること、そして道東の温泉を一通りを巡ることを考えている。無論学生のやるべきことである勉強も最低限こなしながらである。

最後に備忘録としてS君の二番煎じの様になるが、1年の1月現在の私のカレーのレシピを備忘録として残しておこうと思う。

～材料～

・カレールー（どこのメーカーのものでもOK 2種類のルーを入れると美味しくなったような気分になるので2種類入れることをお勧めする）

・ジャガイモ

・玉ねぎ

・人参

・豚バラ（ブロックで買って来たものの方が安上がりだし、食べ応えがありお勧め）

各材料の分量は人数に応じて適当に。

①各野菜、豚バラのブロックを食べやすい大きさに切る。

②豚バラブロックをいい感じになるまで炒める。

③バラ肉を取り出した後、フライパンの上にバターを敷いた後、玉ねぎをいい感じになるまで炒める。人参やジャガイモも適当なタイミングで炒める。

④各炒め終わった材料を鍋に入れ、適当な分量の水を加えて煮込む。その際、形の残ったジャガイモが好きな方は煮込む前に取り出し、適当なタイミングで加える。それと、灰汁を取ることを忘れない様にする。

⑤火を止めた後カレールーを溶かし入れ、焦げない様にかき混ぜる。次の日、デートの予定やバイト（接客）の予定がない方は刻みニンニクはもちろん、チューブにんにくを加えると幸せになれる。

⑥お皿に盛り付けて完成

以上が現在の私のカレーのレシピである。まだ来年のこの時期になってもカレーを改良しながら作っている様であればその際はまた備忘録として記録を残しておこうと思う。

ちなみに私は一人暮らしを始めて自炊をするといってもカレーと肉じゃがくらいしかまともに作れない。されど、たまたま部誌のこのページを開いた下宿を脱獄してこれから一人暮らしを始めようという方や大学に入学して初めて一人暮らしをするという方の力になればこれ幸いと思う。